

	発行者の略号	東書	大日本	
	書名	新しい算数	たのしい算数	
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①考えることがますます楽しくなる教科書 ②学んだことをいろいろ生かすことができる教科書 ③これからもどんどん学び続けたい教科書	①考えるってたのしい！を育てる教科書 ②算数大好き！を育てる教科書 ③分かった！できた！を育てる教科書	
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）」に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図る ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①全ての学年において、学びに向かう意欲を高め、学習課題を創出する「単元プロローグ」を設定している。 ①単元末「たしかめよう」では理解や技能の定着の度合いの確認や、巻末の「ほじゅうの몬드」では、習熟に応じた問題が設けられ、理解を継続的に確認できるように構成されている。 ②全ての学年において、各単元のまとめである「つないでいこう算数の目」では、単元で学んだ数学的な見方・考え方を価値づけている。 ②2学年以上では虫眼鏡マークを付し、児童が数学的な見方・考え方やその働きを意識しやすくなるように配慮している。 ③単元末「いかしていみよう」や巻末「おもしろ問題にチャレンジ」を設定し、学びを生かす経験の積み重ねが、生きて働く知識・技能の定着や学びを生かす力の育成につとめている。	①2～6年生では、全ての時間に「学習のめあて」を示し、本時の内容を明確に意識しながら学習を進められるようにして、「〇年までのまとめ」を新設し、既習内容をふりかえることができるようになっている。 ②本時だけでなく、いろいろな場面で使える数学的な見方・考え方をひらめきアイテムとして提示し、巻末には獲得した見方・考え方をメモする付録シートがつけられ、その後の学習に活用できる。 ②問題に対する多様な解決方法を掲載するとともに、図だけを掲載してそれを式に表現する活動ができるようにしている。 ③「ふくろう先生のなるほど算数教室」を新設し、算数への興味・関心を高めたり、算数が社会で生かされていることを実感したりすることができるようになっている。	
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①第2学年以降の巻頭「学びのとびら」や、「今日の深い学び」では、他者の考えのよいところを認めるような場面が掲載されている。（すこやかな心と体） ①第4学年「算数で読みとこう」では、震災のデータを扱い、防災について考える場面がある。（命を大切にしよう）	①第2学年以降の巻頭「学びのとびら」や、「今日の深い学び」では、他者の考えのよいところを認めるような場面が掲載されている。（すこやかな心と体） ①第4学年「算数で読みとこう」では、震災のデータを扱い、防災について考える場面がある。（命を大切にしよう）	①巻頭の「算数まなびナビ」などで友だちの考えのよいところを見つける学習方法が取り上げられ、多様性を認め合う場面が掲載されている。（すこやかな心と体） ①第3学年以降では、気象予報士や建築家、パティシエなど、算数を生かした仕事に就いた人々を紹介するコーナーが設けられている。（夢への挑戦）
	（ウ）内容と構成 ○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①授業開きのページ「学びのとびら」を設定し、主体的・対話的な問題解決の過程を可視化している。 ①「単元プロローグ」では対話を通して単元全体の課題を見だし、単元末「つないでいこう 算数の目」下段では単元の学習を対話を通して総括する活動を示唆するなど、対話重視の構成になっている。 ②第4学年では、英語科と関連した「大きい数の区切り」で英語での大きい数の表し方が掲載されている。また、理科と関連した「天気と気温」で折れ線グラフを学習する題材が設定されている。 ③巻頭に、学びのとびらやマイノートがあり、言語活動の向上を図っている。 ④第2学年では、体を使った長さの単位「あた・ひろ・つか」を用いて、昔のものの長さの調べ方が掲載されている。また、第6学年では、「算数卒業旅行」で江戸時代の算術や算額が取り上げられている。 ⑤1～3年では、数量や図形を見いだしたり進んで係わったりする活動を設定している。1学年では、具体物を操作したり用いたりできるよう、紙面化している。 ⑥1学年の最初の2つの単元をブロックがおけるようA4版としている。また、直接書き込んだり、書く練習をしたりすることもできるよう配慮されている。 ⑥6学年では、「算数卒業旅行」の最初に「中学校体験入学コース」を設けて、中学校の数学の内容を具体的に経験できるようにしている。 ⑦第5学年では、「倍数の求め方」「正多角形の作図」、第6学年では「数の並べかえ方」において、実際にプログラミングの体験ができる「プログラミングを体験しよう！」が設定されている。 ⑧「ふりかえりコーナー」を設け、必要に応じて自力で既習の内容を確認できるようにしている。 ⑨「おぼえているかな？」が設けられ、既習内容を復習するための問題や次の単元に関連した既習事項を確認することができる問題が設定されている。	①2年生以上では、巻頭の「算数まなびナビ」において、問題解決型の学習の流れやペア・グループ学習を含めた対話的な学びの方法を例示し、主体的に学習に取り組み、友達との対話を通して学びが深めることができる展開としている。 ①「じっくり深く学び合おう！」では、多様な解決方法を比較検討して話し合う活動を通じて、深い学びが実現するように配慮している。 ②他教科に関連した活動・題材や統計資料を適宜扱うとともに、関連していることをマークで示している。 ③2年生以上では、巻頭の「算数まなびナビ」において、話し方・聞き方のポイントを示し、授業における言語活動を促すようにしている。 ④和算を題材とした特設ページを設けたり、日本の伝統的な模様を紹介したり、日本の伝統文化を尊重する態度を育成できるように配慮している。 ⑤測量領域では、量感の育成などを意図し、実際の測定活動を豊富に取り入れている。また、図形領域では、図形に対する感覚を豊かにするために、実際に形を構成したり、観察したりする活動が充実している。 ⑥1年巻頭では、幼稚園・保育園とのつながりを示唆するページを設定したり、単元の学習ではスタートカリキュラムの考えをふまえた活動を多く設定したりしている。 ⑥5、6年では、中学校の学習との接続を意図した巻末特設ページを設置し、「6年間のまとめ」では、特に中学校へ向けて習熟を確実にした内容を重点的に掲載し、マークも付けている。 ⑦全学年の「プログラミングにちようせん！」において、プログラミングにふれる活動を全学年で設けている。 ⑧「〇年までのまとめ」を新設し、既習内容をふりかえることができるようになっている。 ⑨単元末の「たしかめ問題」で個に応じた取り組む問題を選択できるようにするとともに、習熟度別指導などで、柔軟に取り扱うことができるようになっている。また、巻末補充問題「プラス・ワン」を全単元にわたって設定している。	
（イ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③UD教科書体を採用している。また、絵、写真、図などを児童に見やすい紙面になるよう配慮している。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③ユニバーサルデザインフォントを採用し、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色の工夫をしている。		
（イ） 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①巻末オプション教材「新しい算数プラス」に、本文の練習問題にリンクした補充問題を全単元に設定している。 ①第2学年以降の「今日の深い学び」では、数学的活動を通して学習ができる「学習を深めよう」「まとめよう」「使ってみよう」が設けられ、知識及び技能の定着を図る問いが設定されている。	①巻末補充問題「プラス・ワン」を全単元にわたって設定している。 ①各学期の中間・期末にあたる時期に「復習」が設定され、定期的に偏りなく復習できるよう配慮している。	
	②具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか。	①1年①では、教科書に書き込めるようになっている。 ②数、図、式を読み取って言語で表現する活動などを積極的に取り入れるようにしている。 ②第3学年以降では、数直線、表などで多様な考えを表現し、その考えをもとに対話を通じた課題解決が図られるよう「考える力をのばそう」が設定されている。	②問題を右ページに配置し、解決方法をめくったページに配置する構成を随所に取り入れ、問題に対して、自分でしっかりと思考し、それを表現する活動が行えるように配慮している。 ②単元末の「算数たまてばこ」では、日常生活から算数を見つけたり、学習内容を日常生活に生かしたりする活動を通して、知識及び技能の定着を図れるように構成されている。	
	③目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか。	③情報の読解力や活用力を伸長させることができる特設ページ「算数で読みとこう」を新設している。	③各種の学力調査で課題とされている、読解力・活用力・表現力を育成するために、「読み取る力をのばそう」を新設している。	

	発行者の略号	学図	教出
	書名	みんなと学ぶ 小学校 算数	小学算数
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①これからの社会の中で生きていくための資質・能力の育成をめざす教科書 ②問題を見つけて解決するための数学的活動の実現をめざす教科書 ③汎用的な力を身につけるための数学的な見方・考え方の獲得をめざす教科書	①子どもの「問い」を軸に学習を進める教科書 ②数学的な見方・考え方を働かせて学び合う教科書 ③学びと学びを系統的につなげる教科書 ④学び方を身につけ、算数を学ぶよさを実感する教科書
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図る ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「数学的活動」を通して、既習事項をもとにして新しい知識を発見し、その知識を定着させる学習の流れになっている。 ②単元末に掲載した「生活にいかす・深めよう」では、その単元や複数の単元で学習した内容を活用して日常の課題を解決する問題を扱い、総合的な思考力・判断力・表現力を育てる場が設定されている。 ③「深めたいな」というつぶやきから「深めよう」へとつなげ、身のまわりで算数が使えらる課題を多く扱っている。（学年で習う単元の半分の割合で設置されている。） ④ページの左側に「～したいな」という子どもの視点に立った言葉を入れることで、自らが学びたいようになるようにしている。	①既習事項を巻末「学びのマップ」にまとめ、関連する単元からリンクし、学年を超えて既習事項を振り返れるようにしている。 ①典型的なまちがいが起こりやすい問題には、つまずきのポイントを意識させるために「考えるヒント」を載せている。 ②「学んだことをつかおう」や「算数を使って考えよう」を通して、学習したことを総合的に活用できるようにしている。また、見方・考え方のよさを心に残していけるよう、「なるほどマーク」をつけて、ふり返る場面を設定している。 ③「広がる算数」では、探究的に取り組めるような教材を用意している。 ④伝え合い、学び合う学級をつくるために、授業開きの特設教材が設定されている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①第2学年以降の「3つの学び方で学習を進めよう」では、自分の考えと同じ点や、他の児童の考えの長所を考える場面が掲載されている。（すこやかな心と体） ①第5学年の円グラフでの読み取り方の学習では、小学生のなりた職業が取り上げられている。（夢への挑戦）	①「友だちノートを見てみよう」では児童同士でノートを見合う活動が設けられ、「友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう」と問いかけ、他者の考えのよさを認め合う場面が設定されている。（すこやかな心と体） ①日本が将来に誇る科学技術を紹介し、算数の有用性を感じて、自分の将来の職業を考えるきっかけとなるようにしている。（夢への挑戦）
	（ウ）内容と構成 ○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①2年生以上の単元の導入で、日常生活や算数の中から問題を発見することで興味を喚起するとともに、問題発見の場面をイラストの形式にすることで自ら問題を発見する力を育てようとしている。 ①1学期と2学期の終わりに「かつどう!!」「アクティブ!!」の特設ページを設け、主体的・対話的な深い学びに取り組むことができるようにしている。 ①「ふりかえろう つなげよう」では、これまで学習してきた学年や単元を超えてふりかえり、まとめてみることで、新たな発見や深い理解ができるようにしている。また、問題を発展させる発言を促すような吹き出しを挿入することで、子どもたちが学習を広げたり深めたりできるように配慮されている。 ②単元配列では、他教科での利用性の高いものについては、無理のない範囲で早期に学習するようにしてある。また、社会科の統計資料や国語の表現活動、保健体育の安全教育など、他教科との関連を図っている。特に、理科については教材の考察についても関連を測れるよう工夫されている。（2年、3年、4年、5年、6年） ③課題解決した後に、その場面に応じた言語活動が行われるように、「説明したいな」「話し合いたいな」「伝えたいな」などが設定されている。 ④3年生では、祭りで利用する綱や古墳などの長さが取り上げられている。 ⑤5年生の「正多角形と円」では、折り紙を折ったり切ったりすることでどんな形ができあがるかを考え、疑問を発見する活動が設定されている。 ⑥6年別冊「中学へのかけ橋」では、中学数学の例題が取り上げられている。また、6年生の単元の中でも、中学校の内容を発展的に掲載し、ふれられるようにしている。 ⑦各学年にプログラミングに関するページ「プログラミングの○」を設けて、プログラミング的思考が身につくようにしている。 ⑧考え方モンスターや、吹き出しを活用することで、学習の見通しを持たせるよう工夫している。 ⑨各単元に、習熟を確認する適用問題「確かめたいな」がもうけられている。また、図や4マス関係表が設けられ、系統的に図の学習ができるよう構成されている。	①問題発見・解決の仮定を「はてな→なるほど→だったら」の吹き出しで示し、子どもの“問い”の連続で学習を進めている。 ①単元導入では、身近な題材から算数の問題を発見し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようになっている。 ②3年「時ごとと時間」では、町探検の活動を題材にして社会との関連を図ったり、4年「折れ線グラフ」では気温調べの活動を題材にして理科との関連を図ったりするなど、教科横断的に取り組めるように教材を工夫している。 ③巻頭の【算数で使いたい考え方】や、毎時の【なるほど！】などで、子どもの言葉で見方・考え方を表現し、学び合いの場面でそれらの言葉を使って学び合えるようにしている。 ④5年「算数を使って考えよう」では、「和食」を教材として扱っている。また、6年では伝統工芸品などのデザインから対称な形を見つける活動を扱っている。 ⑤第1学年では、ブロックやおはじき、折り紙などの具体物を用いるなど、実感的な理解が得られるような工夫をしている。第2学年では長さの図鑑を作る活動を、第4学年では問題づくりをする活動を取り入れ、学んだことのよさを実感できるようにしている。 ⑥6年生最後の特設教材「開け！算数ワールド」では、「数学へのとびら」として、中学数学の素地となる内容を取り上げている。 ⑥第1学年の算数入門期では、就学前の体験をふまえ、生活科等との関連を図り、スタートカリキュラムとして扱えるようにしている。 ⑦独自開発のプログラミング教材を使って、プログラミングを体験できるようにしている。 ⑧既習事項の一覧を巻末【学びのマップ】に掲載し、分からない箇所があれば子どもが自らふり返って確認できるようにしている。 ⑨「家庭学習」や習熟度に応じた学習に使える練習問題【ステップアップ算数】を設けている。
	（エ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①適切である。 ②工夫や配慮がなされている。 ③色覚特性にも配慮されている。また、グラフなどについても、色だけの場合は判別できるよう模様などもかえたり、文字で色名を表示したりするなどの工夫がなされている。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③UDフォントを採用している。また、カラーユニバーサルデザインへ対応し、識別しやすい配色を用いている。
（イ） 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身につけるための工夫や配慮がなされているか。	①単元全体を問題発見から始め、そこから算数の問題として考察していくような流れにすることで、数学的活動を自然に扱うことができるようにしている。 ①学習で使用する道具については、スモールステップの連続写真で説明し、確実に身につくよう配慮している。 ①3年生以降では、概念の理解が難しい「倍」を特設単元として扱い、重点的に繰り返して学習できるようにしている。	①各単元末の【まとめ】では、間違いやすい問題に「考えるヒント」を掲載し、問題に取り組むきっかけをつかめるようにしている。 ①単元末では、学習したことを活用して日常場面や算数の問題を解決する機会を設け、「何ができるようになったか」を実感できるように工夫している。 ①「算数を使って考えよう」では、身近な題材から算数の問題を見だし、既習事項を生かした課題解決を通して、知識及び技能の定着を図られるよう設定されている。
	②具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか。	②低学年では、ドットや絵、テープ図、中学年ではテープ図と数直線、4マス関係表、高学年では2本の数直線と4マス関係表を問題文と提示したり、図の解釈問題を載せたりすることで、低学年から、課題を図や絵、式で表して考えることを重視し、表現力継続的に育成されるようにしている。	②テープ図（線分図）や数直線、式などを使って考えたり説明したりする力が、段階的に育てられるようになっている。
	③目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか。	③統計分野では、基礎を身につける「整理」単元と知識を活用する「活用」単元に分割し、必要な知識を身につけ、それをどのように活用していけばよいかを明確になるようにしている。	③統計の学習では、必要感をもって取り組める教材を選定し、統計的な問題解決の方法を使って考察していくようになっている。

	発行者の略号	啓林館	日文
	書名	わくわく算数	小学算数
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①生活していく上で、基礎となる数学的知識・技能を習得できる教科書 ②筋道を立てて考える能力を育て、ものごとを合理的に処理する力をつけることができる教科書 ③新しいものごとを理解し、創造する能力と主体的に学習する態度を養うことができる教科書	①筋道立てて考え表現するための学び方を育む教科書。 ②生活や学習の基盤となる算数の礎を身に付けることができる教科書。 ③算数の楽しさやよさをしっかり感じられる教科書。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図る ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「学習の進め方」を2～6年生の巻頭に載せることで、毎日の学習や身の回りの事柄との学びのつながりの大切さを示している。 ①第2学年以降の巻末には、単元ごとの基礎的事項を習熟度別に学習することができる「もっと練習」が設定されている。また、既習事項をまとめた「〇年生のまとめ」が掲載されている。 ②思考の助けとなる図や表、式などを中心に学習するページが設けられ、立式の根拠や操作の手順などを説明する活動が掲載されている。 ②第3学年から、演算決定能力を養うため、関係図を一貫して扱っている。 ③各学年「学びを生かそう」では、身の回りの事象と算数とのつながりを意識できるようになっている。	①単元前には既習事項を確かめる「次の学習のために」、巻末の「しっかりチェック」で繰り返し練習することによって、習熟・定着が図れるようにしている。 ①子どもがつまずきやすい内容が含まれる単元には、「わかっているかな？」を設け、ていねいに振り返ることができるようになっている。 ②問題解決的な学習の展開例を示した「さあ、算数の学習を始めよう！」、ノート書き方を示した「算数ノートをつくらう」を設け、算数の学習の進め方を示している。 ③「ハロー！ 算数」「Hello！ Math」では、習得した知識や技能を用いて数学的活動に取り組めるようにしている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①話し合いの場面では、自他の考えを比較し、異なる意見を尊重したり、類似点を見つけたりする活動が設定されている。（すこやかな心と体） ①第6学年の「ひろがる算数」では、ピアニストや古生物学者など、様々な職業に就く人々にインタビューし、仕事と算数の関係について掲載されている。（夢への挑戦）	①各学年とも、教室での学習場面を示した「自分で みんなで」の中に「学び合おう」が設けられ、他者の多様な考えを認め合うような場面が設定されている。（すこやかな心と体） ①オリンピック・パラリンピックに関わる題材や話題を取り上げている。（夢への挑戦）
	（ウ）内容と構成 ○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①既に学習した方法で同じように考えを進めていける場面には、「自分の力で」のマークをつけ、児童が主体的に学習を進めていけるようにしている。 ①単元の導入場面の「じゅんぴ」では、日常生活と関連を図った課題が設けられ、児童自らが見通しや課題意識を持ち、課題解決をしながら理解を深めていくよう構成されている。 ②第3学年では、社会と関連した「都道府県の人口」で一万を超える数を、第4学年では、理科と関連した「気温」で折れ線グラフを学習する題材が設定されている。 ③各学年、話し合いの仕方を巻末に掲載し、言語活動の向上を図っている。 ④第2学年では、昔の長さの単位として「ひろ・あた・つか」が掲載されている。また、第5、6学年では、日本の歴史的建造物が計算や図形の題材として取り上げられている。 ⑤第4学年の「角の大きさ」では、作成した扇を使って様々な角の大きさを作る体験活動が設けられている。また、第5学年の「合同な図形」では、巻末の付録を用いて合同な図形を探す体験活動が設定されている。 ⑥1年生では「わくわくすたあと」を設け、幼小の連携（スタートカリキュラム）への対応をとっている。 ⑥6年生では、「数学のとびら」や『中学校で学ぶ「数学」の簡単なしょうかい』で、中学にむけての内容が取り上げられている。 ⑦第5学年の「算数ラボ」では、プログラミング的思考を育むような内容として、正多角形の作図のアルゴリズム体験が設定されている。 ⑧めばえ（つぶやき）を載せることで、学習の見通しを立てやすくしている。 ⑨第2学年以降では、単元の導入として「じゅんぴ」が設けられ、単元の学習に入る前に既習事項を確認することができるように構成されている。 ⑨単元の最後に『やってみよう』として、学習したことを発展的に見直す機会が設けられている。	①問題解決的な学習の展開例を示した「さあ、算数の学習を始めよう！」を設け、子どもの主体的・対話的に学習を進めていけるようにしている。 ①問題解決的な学習過程と学習を進めていく際の着眼点をまとめた「学び方ガイド」を示している。 ②最終ページには「さく引」を設け、国語科の辞書を使った学習との関連が図れるようにしている。 ②入学直後は生活科を中心とした題材、中・高学年では、人口・気象・調理など、主に社会・理科・家庭科と関連のある題材を取り上げている。 ③「算数ノートをつくらう」を設け、結果だけでなく、考えた過程を言葉、数、式、図などを使って説明できるように、ノートの書き方の事例を扱っている。 ③「よみとろう あらわそう」では、言葉、数、式、図など数学的な表現の相互関連を整理するような内容や、テープ図や数直線図のよみ方、かき方についても系統的に整理している。 ④和食や和算など伝統・文化に親しみをもてるような算数に関わりのある題材を掲載している。 ⑤「ハロー！ 算数」「Hello！ Math」では、身の回りのデータを集め、表やグラフを使って表し、考察する活動を取り上げている。 ⑥1年の「さんすうのはじまり」では、アルバムの写真をもとに、保育園や幼稚園での経験と算数との関連を見つけて対話をするような場面、6年後半には「もうすぐ中学生」を設け、小学校での学習をふまえ、中学校で学習する内容について紹介している。 ⑦正多角形をかくプログラムを考える場面を、コンパス等を用いて作図する学習後に取り上げている。 ⑧「たしかめポイント」では、各問題こねらいを入れたり、学習した参照ページを示したりしている。 ⑨つまずきやすい内容が含まれる単元には、「わかっているかな？」を設け、子どもが振り返ることができるようにしている。
	（エ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③ユニバーサルデザインフォントの使用や、カラーユニバーサルデザインの観点から色の配慮がなされている。	①概ね適切である。 ②配慮されている。 ③カラーバリアフリー、ユニバーサルデザインなどの観点から色の配慮がなされている。文節改行を取り入れ、読みやすい配慮を行っている。
（イ） 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①毎時間、練習問題が設定されている。巻末に練習問題ごとに対応した「もっと練習」が設けられ、習熟度別学習など、実態に応じて柔軟に補充できるように配慮されている。 ①各学期の中間・期末にあたる時期に「復習」が設定され、定期的に偏りなく復習できる。 ①全国学力調査等で正答率の低かった問題には☆マークがついている。 ①第2学年の「直線のかき方」や第4学年の「垂直・平行のかき方」では、手順を細かく示した連続写真を参考にかきながら技能の定着を図られるよう設定されている。	①「ハロー！ 算数」「Hello！ Math」では、習得した知識や技能を用いて数学的活動に取り組めるようにしている。 ①「どうしてがいえるかな」では各単元の内容、「活用」では複数の単元や領域を結び付けた内容を用いて、理由や方法などを説明させる記述式の問題を扱っている。 ①「わかっているかな？」を設け、つまずきやすい内容を学び直す機会を設けている。全国学力・学習状況調査や各地域での学力調査において通過率の低い問題を「まちがしやすい問題」として取り上げている。 ①単元末の練習問題のページごとに対応した「ぐっとチャレンジ」のページを設け、応用的・発展的な問題に取り組めるようにしている。
	②具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか。	②図に関しては、各学年で系統立てて指導できるよう構成されている。さらに、巻末でふり返られるようになっている。 ②途中段階の図や表を載せることで、考えのきっかけや見通しをもたせている。 ②学びをいかそう「わくわく算数ひろば」では、身近な日常生活の題材を通して、図、数、式、表などを用いて、伝え合う活動が取り上げられている。	②考えた過程を言葉、数、式、図などを使って説明できるように、ノートの書き方の事例を「算数ノートをつくらう」で示している。 ②「よみとろう あらわそう」では、テープ図や数直線図のよみ方、かき方を系統的に整理している。
	③目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか。	③第3学年以降の巻末の「みらいへのつばさ」では、日常生活や社会問題を取り上げ、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。	③「ハロー！ 算数」「Hello！ Math」では、身の回りのデータを集め、表やグラフを使って表し、考察する活動が取り上げられている。統計的な課題解決の方法については、高学年で段階を追って扱っている。

